

# 東京音楽大学リポジトリ

## Tokyo College of Music Repository

### あとがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 敦子, Okada, Atsuko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1453">https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1453</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## あとがき

岡田 敦子（ピアノ）

今年度の博士共同研究は、履修学年の1年生が1人、2年生が2人、計3人となり、昨年度に引き続き共同研究Aと共同研究Bが合同して進められた。授業のとりまとめは昨年度の渡辺裕教授（共同研究A）から、村田千尋教授（共同研究B）に引き継がれた。

年度の始めに設定した研究テーマは「作品について考える」。このテーマは幅広い領域をカバーできる一方、焦点が絞りにくいのではないかという危惧もあったが、3人の学生はそれぞれ日頃から抱いていただろう問題意識に結びつけ、きわめて真摯な探求の場を創り出していった。中川麗子（声楽）はオペラと演出の関係、保崎佑（管楽器）はバロック作品における楽譜と演奏の関係、福田麻子（弦楽器）は音楽と価値評価の関係へと、それぞれの論点を収斂させていったが、その過程は3人が音楽家としての自己の内面を少しずつ掘り下げる旅でもあった。それには村田教授のつねに優しく穏やかな導きがあったことも大きい。

この学生の発表をとり囲むように行われた教員の発表は、おもに音楽学、音楽教育学など研究を専門とする教員が受け持った。西洋音楽、民族音楽、あるいは歴史的、体系的と多岐にわたった教員発表は、学生に貴重な示唆を与えただけでなく、教員にとっても興味の尽きないものであった。座学系の教員の学術的な発表に関連して、学生のほうから実技系の教員の体験や意見を求める場面もあった。

2014年にスタートした東京音楽大学の博士課程は、今年度が8年目である。博士課程の学生が一同に会し、その倍を越える教員が各分野から集まる「博士共同研究」は、他大学に例をみないものだけに、試行錯誤が避けられない一面をもつ。そのなかで今年度はきわめて順調に推移した一年であったと思う。いずれも演奏を専門する3人の学生たちは、コンクールやオーディションなどで際立った成果を上げながら、同時にこの授業にも積極的に取り組んでいた。その頑張りエネルギーが驚異的でしたらあったこともここに記しておきたい。